

年表 (時代のものさし)

埋蔵文化財ってなあに？

埋蔵文化財とは、地下に残された道具や家の跡などを言います。

- 昔の人がつくった道具などを「遺物」といいます。たとえば土器や石器。
- 昔の人が掘った穴やつくった家などを「遺構」といいます。
- 遺物と遺構が含まれる空間を「遺跡」といいます。
- 「遺跡」を調べることを「発掘調査」といいます。

みなさんは、学校で歴史を学びますが、歴史を知る方法には2通りあります。1つは、昔の人が残した文書や絵などを調べる方法です。もう1つは、遺跡を調べる「発掘調査」です。

文書を調べるだけでは、文字のない時代のことを知ることはできませんし、遺跡の発掘調査だけでは、当時のくらしや仕組みを詳しく知ることができませんので、歴史を正しく知るためには、この両方が必要なのです。

そして、これらは昔の人が現在の私たちに残してくれた貴重な財産なのです。



用語解説

- 経塚・経筒：お経を書いた紙や本を納めた筒のことを経筒といい、経筒を埋納した塚を経塚という。
- 古墳：古墳時代につくられたおおきなお墓のこと。普通は、地上に大きく土を盛り上げた高塚墳をさす。
- 前方後円墳：上から見ると丸と四角が合わさった形の古墳。・円墳：上から見た形が円の古墳。
- 須恵器：灰色をした素焼きの硬い焼物。朝鮮半島から伝わった技術で作られ、窯で焼かれた。
- 石器：石の道具。石を割って作られたものが多い。主に刃物として使用された。
- 石鏃：矢の先に付ける先のとがった三角形の石器。磨いてあるものは磨製石鏃。
- 石包丁：稲の穂を刈る道具。・尖頭器：槍の先につける木の葉のような形をした石器。
- 剥片尖頭器：尖頭器よりも簡単に加工されている。旧石器時代後半の石器。
- 細石刃と細石刃核：長さ1cmくらいのかみそりの刃のようなもの。細石刃を割り取る石を細石刃核と呼ぶ。



- 旧石器時代終わり頃の石器。(P20 を見てください。)
- 装身具：身につけるアクセサリー。勾玉・管玉・貝輪(腕輪)・耳環(イヤリング)などがある。
- 竪穴住居跡：地面に穴を掘った半地下式の家。古代まで続く家の形。(P21 を見てください。)
- 土器：粘土をこねて形を作り焼いたもの。時代や地域によって形や文様が違う。
- 配石炉：大きな石を並べてつくった炉のこと。
- 土師器：古墳時代以降につくられた粘土を使用する素焼きの焼物。
- 文化財：人類によってつくられ、残されてきた有形・無形の文化的な財産。
- 墨書土器：土師器や須恵器に墨で文字や絵がかかっているもの。
- 掘立柱建物跡：地面に柱穴を掘り、柱を立て、壁や屋根つくるもの。現在の家の原型。
- 山城：中世につくられた自然の地形を利用して作られた城のこと。*都城には、「都城・高城・山之口城・勝岡城・梶山城・志和池城・山田城・野々三谷城・安永城・財部城・恒吉城・梅北城・末吉城」(庄内十二外城)をはじめ多くの山城がつくられた。

